

山梨県峡東地域

平成28年度
認定

峡東地域の扇状地に適応した 果樹農業システム

峡東地域は、養分や保水力に乏しく稲作には適さない立地条件であったことから、ブドウ、モモ、スモモ、オウトウ、カキなどの多品目の果樹栽培が普及し、既に江戸時代には果樹の産地として知られていました。中でもブドウは、平安時代から栽培されていたとも言われ、湿潤で降水量の多い日本の気候に適応するため、約400年前に棚に枝を這わせる「棚式栽培」という独自の技術が考案され、現在その技術は日本各地に普及しています。

また、こうした果樹の歴史を背景に、品種の育成や選抜が行われ、我が国最古のブドウ品種である「甲州」をはじめ、現在では300品種を超える多様な遺伝資源が受け継がれています。果樹農業は、ワイン醸造などの果実加工や約120年前に始まったとされる観光果実園とともに発展し、様々な文化・祭事とともに世界に誇る特色ある地域を形成しています。

※日本農業遺産のシステム名は「盆地に適応した山梨の複合的果樹システム」ですが、世界農業遺産のシステム名を通称として使用しています。



1



2



3

①モモやスモモの花が咲き乱れる春の風景 ②我が国固有品種「甲州」ブドウ
③峡東地域の「モモ」



1



2



3

①山間地に階段状に広がるわさび田 ②わさび田周辺に生息するハコネサンショウウオ
③地域内の代表的な品種「真妻」

静岡県わさび栽培地域

平成28年度
認定

静岡水わさびの伝統栽培

—発祥の地が伝える人とわさびの歴史—

わさびは日本列島で独自の進化を遂げた固有種であり、自生する野生のわさびが日本各地で見られます。当地域では、約400年前の江戸時代初期に世界で初めて栽培が始まり、長い歴史の中で地域に適した数多くの品種・系統と栽培技術が生み出されてきました。農作物の生産が難しい森林に囲まれた環境の中で、山の傾斜に沿って沢を階段状に開墾してわさび田を作り、肥料を極力使わず豊富な湧水に含まれる養分で高品質なわさびを生産する技術が発展し、特に、明治25年頃に開発された「畳石式」と称される栽培方式は、生産量を飛躍的に向上させました。

わさび田は、わさびを強い日差しから守るために植栽されたヤマハンノキと相まって、独特の景観を織り成しています。また、緩やかな水の流れは、ハコネサンショウウオなどの希少な生物に生息環境を提供しています。

三重県鳥羽・志摩地域

平成28年度
認定

鳥羽・志摩の海女漁業と真珠養殖業

－持続的漁業を実現する里海システム－

当地域は、リアス海岸を特徴とした豊かな自然と美しい景観が残されており、陸域からの栄養により育まれた豊かな藻場では、約1200年以前から、素潜りでアワビやサザエなどの水産物を漁獲する海女漁が営まれてきました。また、約1000年以前から天然真珠が採取されており、1893年には水中作業を担う海女の存在を背景に、世界で初めて真珠養殖に成功、現在その技術は世界各地に普及しています。

資源保護や環境保全のため、海女は厳しい漁獲制限などを行い、真珠養殖業者は養殖筏の台数を管理し、地域では干潟や藻場の保全活動に取り組んでいます。

環境に配慮しつつ生態系を持続可能な形で利用することで、自然と人間との共存を実現する「里海システム」が受け継がれています。



1



2



3

①志摩半島 英虞湾の風景（写真提供：一般財団法人伊勢志摩国立公園協会）

②海女漁：伝統的な素潜り漁により海からの恵みを漁獲

③真珠：豊かな自然と人間の英知の結晶



1



①ヒノキ植林地と熊野灘

②FSC認証 尾鷲ヒノキの丸太



③伊勢志摩サミットで使用された尾鷲ヒノキの円卓（出典：外務省ホームページ）

三重県尾鷲市、紀北町

平成28年度
認定

急峻な地形と日本有数の 多雨が生み出す尾鷲ヒノキ林業

三重県尾鷲・紀北地域は大台山系に連なる急峻な山岳地帯であり、平地が極めて少ないため、稲作に向かず古くから林業が発達し、1630年前後には人工造林が始まりました。地形が急峻なうえ、年平均3,800mmを超える多雨により土壌が発達しにくいうことから、瘦せ地に耐えるヒノキへの樹種転換が嘉永年間（1850年頃）以降に行われ、人工林の9割をヒノキが占める全国でも例のないヒノキ造林地帯を形成しています。

痩せ地で生長が遅いという不利な条件を逆手に取り、苗木を密植し間伐を繰り返すことで、緻密で均一な年輪幅を形成し、強度が高く木目が美しいヒノキを生産する独自の技術が発達しました。こうして造成されたヒノキ林は、リアス海岸に面した急斜面や世界遺産「熊野古道」沿線に広がり、地域固有の景観を成しています。

滋賀県琵琶湖地域

平成30年度
認定

森・里・湖(うみ)に育まれる漁業と農業が 織りなす琵琶湖システム

多くの在来魚が生息する琵琶湖の湖辺では、弥生時代以降、人が開発した水田にニゴロブナ等の湖魚が遡上し、そこを繁殖場として利用するようになりました。そして、人は農作業の傍ら、こうした湖魚を捕獲する待ち受け型の漁法を発展させてきました。

漁法の代表格はエリ漁です。鎌倉時代には、漁獲の競合に対処するためエリの設置を制限するなど社会的な仕組みも築かれ、現在の資源保全や漁業調整の礎となっています。

漁獲された湖魚は、「ふなずし」等の「なれずし」にも加工され、重要な保存食となるほか、客人をもてなす御馳走や祭礼でのお供えとしても用いられてきました。

こうした食文化は、漁業や農業を受け継ぐ精神文化的な基盤の醸成に寄与してきました。また、多様な主体が参画して琵琶湖の水質や生態系を保全する、現代の「環境こだわり農業」や水源林保全にもつながってきています。



1



2



3

①早朝、朝もやの中で漁獲を待つ伝統的なエリ（小型の定置網）

②琵琶湖の恵み（多彩な漁獲対象魚）

③湖の魚が産卵にやってくる「魚のゆりかご水田」での「生きもの観察会」



1



2



3

兵庫県兵庫美方地域

平成30年度
認定

人と牛が共生する美方地域の 伝統的但馬牛飼育システム

美方郡の集落は山間部の谷筋にあり、水田面積が小さく積雪が多いため、冬季の出稼ぎ、但馬牛飼育、米作りが農家の生活を支えてきました。

美方郡産但馬牛は、地域産の良質な草を与えられ、山に放牧され、棚田に使役されながら家族同様に大切にされてきました。生産された子牛は農家の重要な収入源であり、古くは嘉永2年（1849年）に子牛市を開設した記録があります。明治31年（1898年）頃に全国に先駆けて「牛籍簿」が整備され、これが血統登録の基礎となり、全国の和牛改良の先頭に立つ地域となりました。

美方郡では全国の黒毛和種で唯一、郡内産にこだわった改良を続けてきた結果、世界でもここにしかない独自の遺伝資源が保全され、黒毛和種の遺伝的多様性の維持に大きな役割を果たしています。

①美方郡香美町村岡区熊波の棚田放牧風景

②全国の黒毛和種の99.9%の祖先に登場する名種雄牛「田尻」号

③全国の和牛改良の基礎となった「牛籍簿」

※日本農業遺産のシステム名は「兵庫美方地域の但馬牛システム」ですが、世界農業遺産のシステム名を通して使用しています